

ファナック株式会社
2021 年度第 1 四半期 決算説明会(電話会議) 質疑応答要旨
(2021 年 7 月 29 日開催)

Q. 通期計画を下期中心にかなり上方修正していると思います。FA、ロボット、ロボマシンの様々な分野で需要が拡大しているという説明でしたが、地域別に詳しく教えていただけないでしょうか？

A. 全般的に中国、米州、欧州のどのマーケットも非常に好調です。日本も回復基調です。下期も同程度の売上が続く想定で通期予想を修正しています。FA、ロボット、ロボマシンのいずれも好調ですが、特に FA とロボットが非常に好調です。ロボマシンについては一時的な需要がありましたが、2Q 以降についてはいったん落ち着くと見えています。米中貿易摩擦、コロナ禍による落ち込みから全世界的に回復基調にあり、しばらく堅調な状況が続くと見えています。

Q. 地域別の受注モメンタムの持続性をどう考えていらっしゃいますか？

A. 日本については、中国、米州、欧州に比べ回復に時間がかかりましたが、これからだんだん増える方向と考えています。欧州についても、米州より少し遅れて回復してきましたが、引き続き堅調に推移すると見えています。中国については、特に FA を中心に非常に多くの注文を頂いていますが、先行発注も含まれると考えていますので、今後少し調整されるだろうと思います。ただし、実需は今後も堅調に推移すると見えています。

Q. 業種別でも教えていただけないでしょうか？中国の設備投資をどのように見ていらっしゃいますか？

A. 主要業種は軒並み調子が良いと思っています。中国では、IT 関係、建機関係が好調で、自動車関係も EV を中心に非常に堅調に推移している状況です。米州、欧州も堅調です。ロボット関係では、自動車以外の一般産業もロボット化に熱心で、様子見していた設備投資を、景気回復に伴い急いで行っている状況と見えています。

Q. 米州ではロボットの受注高は増えていますが、事業ごとに説明していただけますか？

A. 説明会資料 4 ページの部門別売上高の地域別円グラフにあります通り、米州では FA、ロボマシンが少なく、ロボットが非常に多くなっています。受注は引き続き堅調です。1Q の売上は前 4Q に比較して減っていますが、売上を計上するタイミングのずれによる一時的なものです。

Q.ロボマシンは一時的な需要のみによる増加で、他は広がっていないのでしょうか？

A. ロボマシンはロボドリルにおいてパソコンやタブレット向け用途が一時的に大きく増加しましたが、IT 向け用途は非常に堅調で、自動車部品関係、機械加工関係の需要もあります。ロボショットもレンズ成形などの高精度成形が広がっており、堅調に推移しています。

Q. パソコン、タブレット向けロボドリルの需要動向は FA ビジネスにも影響が出るリスクはありますか？

A. パソコン、タブレット向けロボドリルの受注が集中しましたが、ずっと続くものではありません。しかし、パソコン、タブレット向け需要は引き続き堅調であり、そこでは我々の CNC を搭載した工作機械メーカ

の機械が使用され、堅調に推移しています。

FA では、中国で IT 関係のウエイトが高いのですが、建機や半導体関係でも部品加工の需要が高まっています。自動車でも EV 関係を含め高い需要があります。

Q. 受注高が大きく上振れると翌四半期は売上が伸びるので、1Q はもっと売上が伸びると思っていました。1Q では売上高と受注高で 200 億円の差があり、過去に比較して大きな差になっています。一方で部材需給がタイトという話も聞きます。修正計画について、四半期毎に 1,800 億円前後の売上が横ばいの想定なのでしょうか？本来 2,000 億円以上の受注があるにも関わらず、納期や生産の制約で 1,800 億円という想定になっているのでしょうか？

A. 受注状況から見ますともう少し売上を増やしたいところですが、部品の入手が非常に厳しい状況です。引き続き調達に全力で当たっていますが、厳しい状況が続くと考えて売上予想を立てています。過去数年間にわたり自社工場への投資を進めてきていますので生産キャパシティはありますが、世界的な部品入手難は、弊社におきましても非常に厳しい状況です。

Q. 今期中に部品不足による生産の制約が解消する想定をしていますか？

A. 部品調達の制約がどこで解消されるかは見通しにくいところです。しばらく厳しい状況が続くと覚悟した見通しとしています。解消できれば、いち早く 1 台でも多く作ってお客様のもとに届けたいと考えています。

Q. 部品需給ひっ迫により、取引先が CNC を仮需として、もしくは先行して発注しているものがありますか？先行発注は中国だけでしょうか？

A. われわれの CNC はユニットであり上流工程で使用されますので、どうしても先行的な発注は含まれます。納期が長くなると、中国に限らず日本を含めいろいろな国の取引先から先の発注が入ってくるケースがあります。世界的な部品調達難であり、危機感を持って全力で部品調達に取り組んでいる状況です。

Q. 説明会資料 7 ページの地域別の受注高で中国の FA が減少した要因は先行発注の反動減でしょうか？中国での先行発注は前 4Q よりも少ないもののまだあると捉えてよいのでしょうか？

A. FA は中国向けが立ち上がりがあったこと、納期が長くなったことにより前 4Q に先行発注がありましたので、現在調整されているところです。1Q についても先行発注は少し入っていると思います。

Q. 工場の操業レベルはどのくらいでしょうか？年度末に向けてどのような計画をされていますか？

A. 生産については、しばらく現在の非常に高い状況が続くと見えています。部品調達制約が緩和してくれば生産キャパシティはあります。

Q. FIELD system をはじめとするデジタルに力を入れていますが、業績への寄与があまり大きくない印象です。お客様のニーズや課題に対応するため、どんなことを行ってきたのでしょうか？ファナックの成長にどのようにつながりますでしょうか？

A. こうした新しいものを立ち上げてビジネスとして成立させるには時間がかかるものと思っています。多くのお客様に興味を持っていただいております。トライは進んでいます。時間がかかりますが、地道にきちんとマ

ネットサイズできるよう体制を強化して取り組んでいます。

こうした IoT の商品は、FIELD system だけではなく、MT-LINKi などもう少しローエンドの稼働監視システムがあり、その延長として FIELD system や DUCNET と融合していけるだろうと思っています。私どもの FA 技術と親和性が高いものですので、この 7 月より、FA 事業と一体となった組織に改編し注力しているところです。

技術的にはここ数年 IoT と AI に取り組んでおり、地道に性能や保守性の向上などの成果を挙げてきています。また、性能も大事ですが、使いやすくすることで敷居を下げ、お客様に広く訴求する成果が挙がっています。当社商品全般、非常に多くのご注文を頂いている要因には、こうした過去数年の取り組みもあろうかと思えます。

Q. 使いやすさを追求した協働ロボット CRX はハイエンドのプロ向け DX、FIELD system の対極にあるのではないのでしょうか？お客様が求めているものに対する気付きにつながっていると考えてよいのでしょうか？

A. お客様からは自社の工場を何とかしたいというご要望があります。それに対する仕組みとして FIELD system を用意しましたが、実際にお客様が自由に構築するのは難しい面がありましたので、弊社やアプリケーションを作るベンダーさん等で、そのギャップを埋める努力がより一層必要だと思っています。工場の現場でお使いいただくにはお客様ごとのカスタマイズが必要ですので、お客様の視点で使いやすさを考慮することが課題と認識しています。CRX で使いやすさを追求していることと、根は同じだと思えます。

以上

本資料に含まれている将来に関する見直しには、市場における製品の需給動向、競合状況、経済情勢その他に不透明な面があり、実際と異なる可能性があることをご承知お願います。